

川上村木匠塾

2013 半割リズム

～参加大学～
大阪工業大学
大阪芸術大学
近畿大学
滋賀県立大学
奈良女子大学

私たち研究室は毎年、川上村木匠塾という活動に参加しています。
関西の建築系の学生・教員と奈良県吉野郡川上村が連携し吉野の間伐材を利用させて頂き実寸の制作物をつくり、川上村に還元するワークショップです。
今年の制作物はホテル杉の湯から見える倉庫の目隠しと健民ランドにあるパーゴラの改修を行いました。大阪工業大学は倉庫の目隠しを担当しました。

Program 1

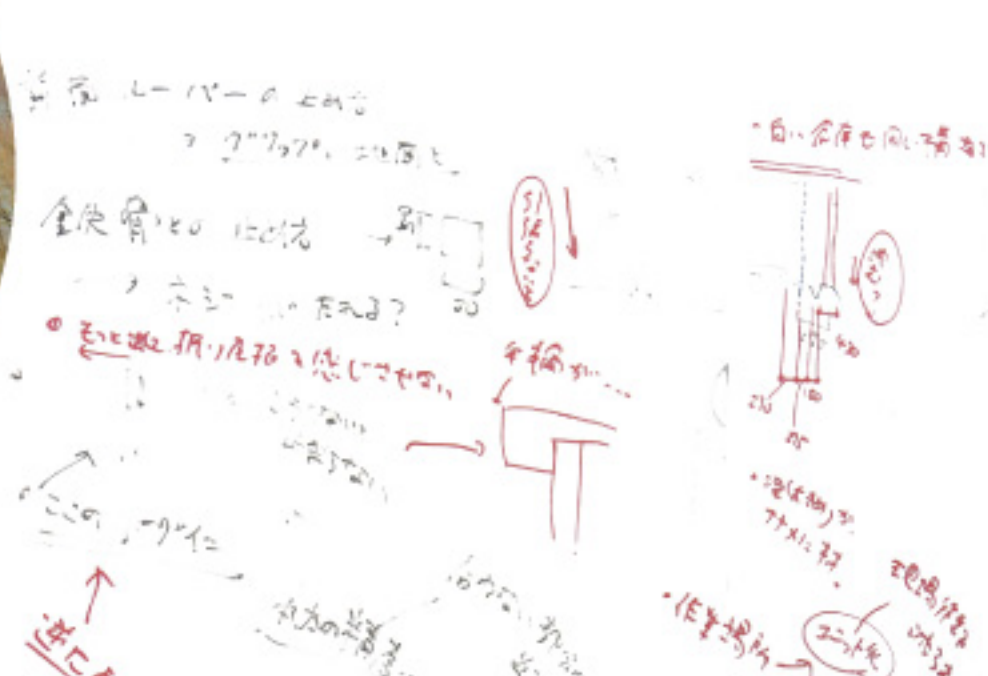
01、敷地調査・要望

～村からの要望～
ブロック塀の見た目を何とかしたい。
木ならなんでも良い。
丸太でも製材でもよい。
宴会場と5階客室から見える。



02、スタディ

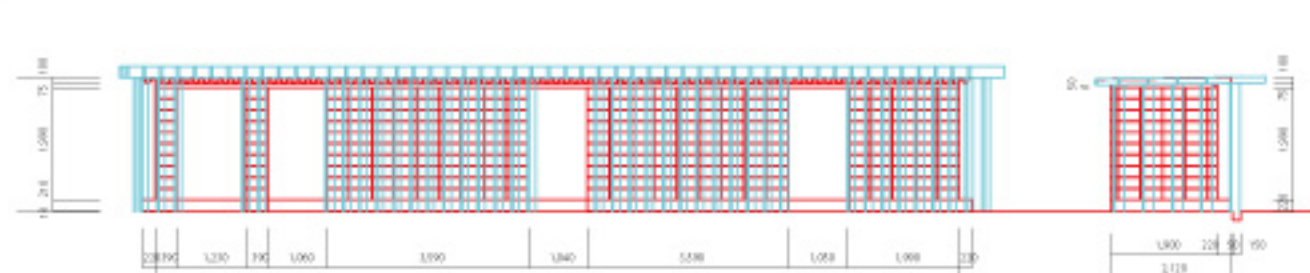
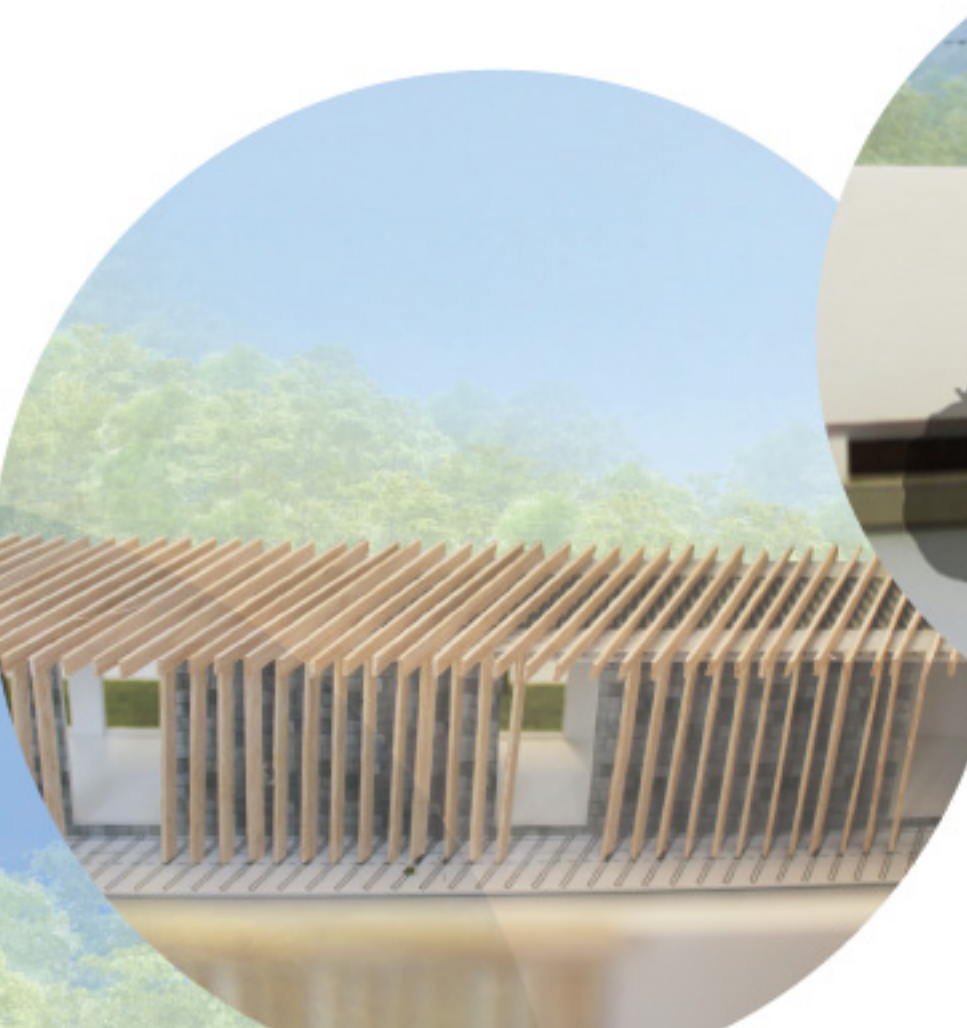
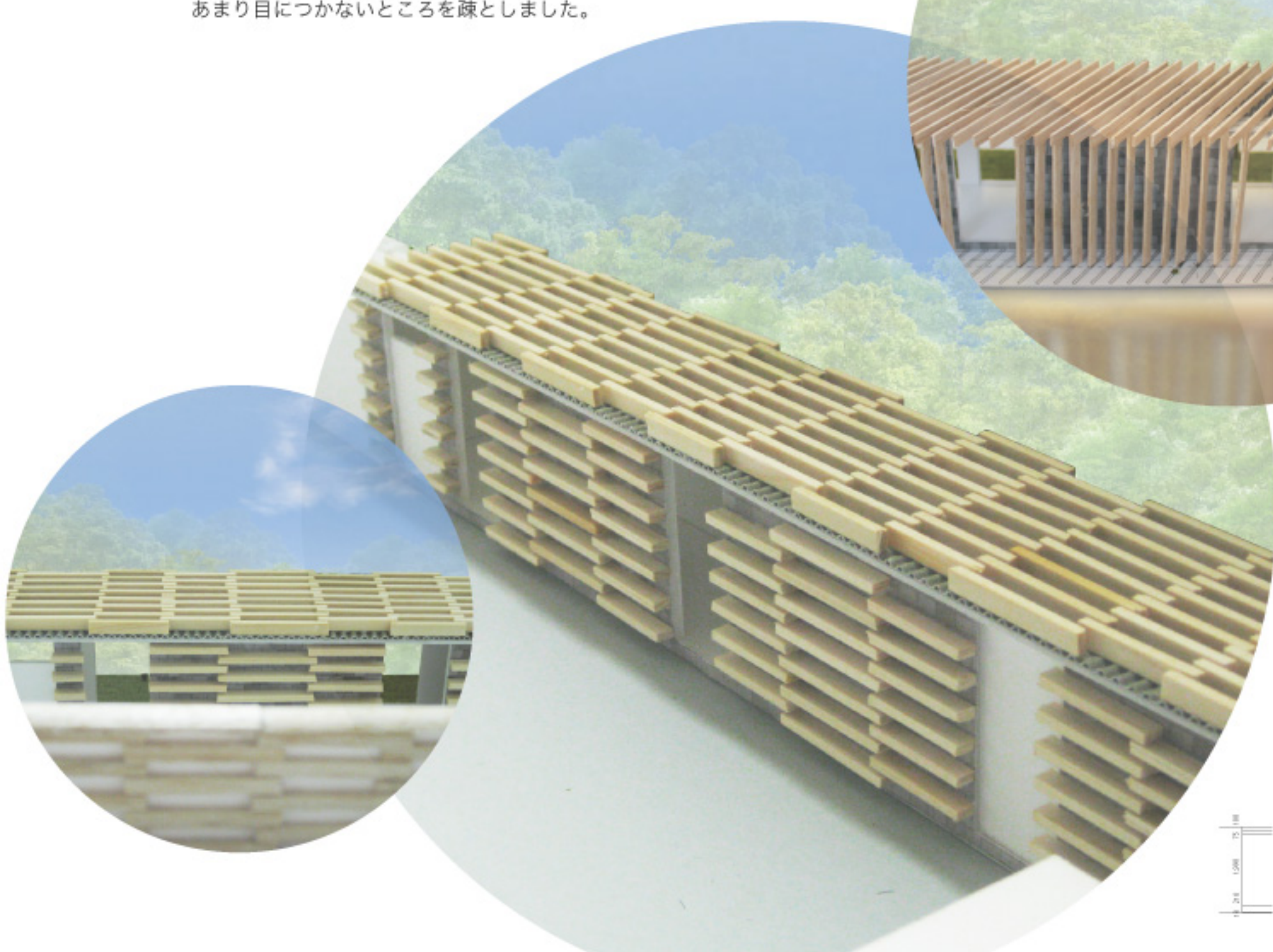
～調査結果～
スキマを作る方針。
目立たない、木の素材が活きるもの。
裏面は見えないのでやらない方向。
屋根を掛ける場合メンテナンスを考慮し設計。
こてこてしないものが良い。



● スタディ案の意見交換

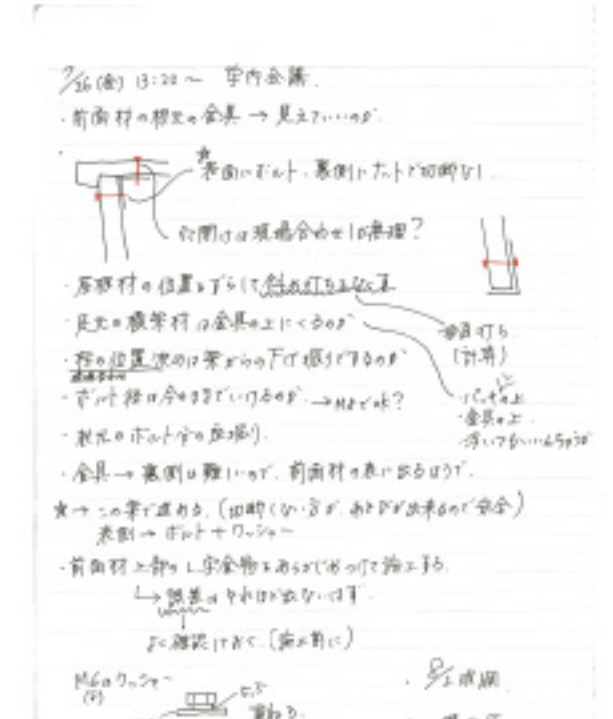
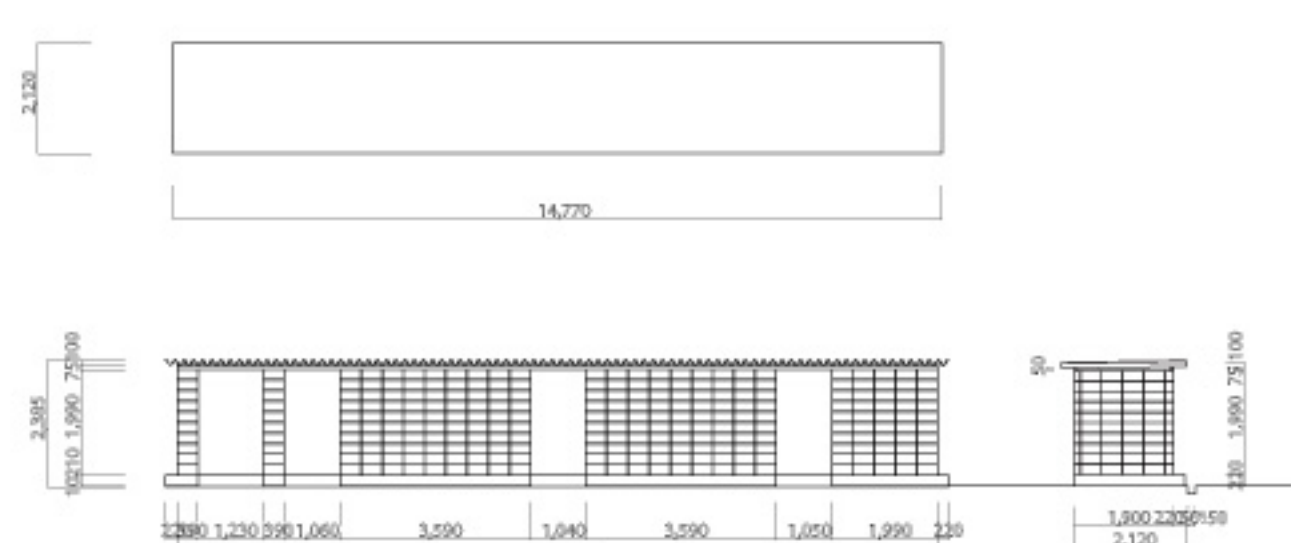
03、基本設計

道の駅班として大阪工業大学、近畿大学、滋賀県立大学の共通言語として、縦のルーバー・シンプルに届す・ゴテゴテしない・丸太の良さ・本数を少なくするという要点で各大学スタディを進めていくことになった。また、屋根は多くの人から見える部分を密にあまり目につかないところを疎としました。



04、教員レビュー

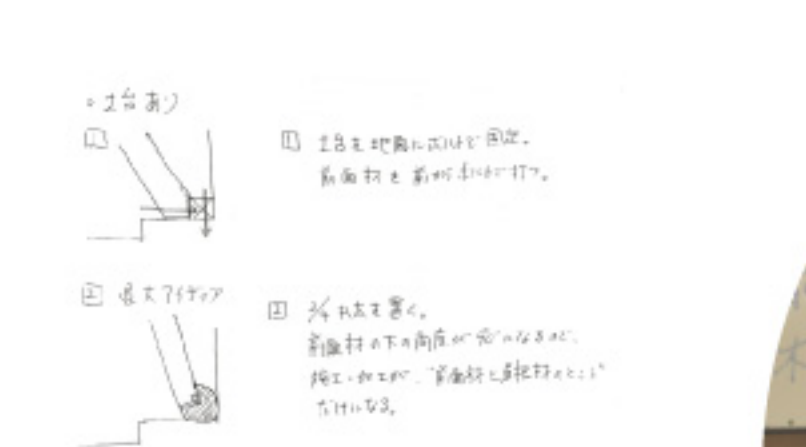
～1回目～
屋根の上に乗せて大丈夫か？
ルーバーで影は生まれるのか？
施工面と金銭面のことを考えるべき
メンテナンスのことを考えると横の梁は厳しい
～2回目～
前面材の留め方の検討
屋根材の施工のしやすさを検討
丸太のピッチの検討
細いボルトで構造的に大丈夫か？



● 学内会議による接合の検討

05、詳細設計

教員レビューで出た問題点からスタディを重ね屋根は横架材の上に半割り材を載せ、屋根への負担を軽減し粗密でグラデーションをつくる。
前面材はし字金物で屋根材と固定させる。
材の加工についてはテンプレート作成し、作業効率を図る。
ピッチは300mm

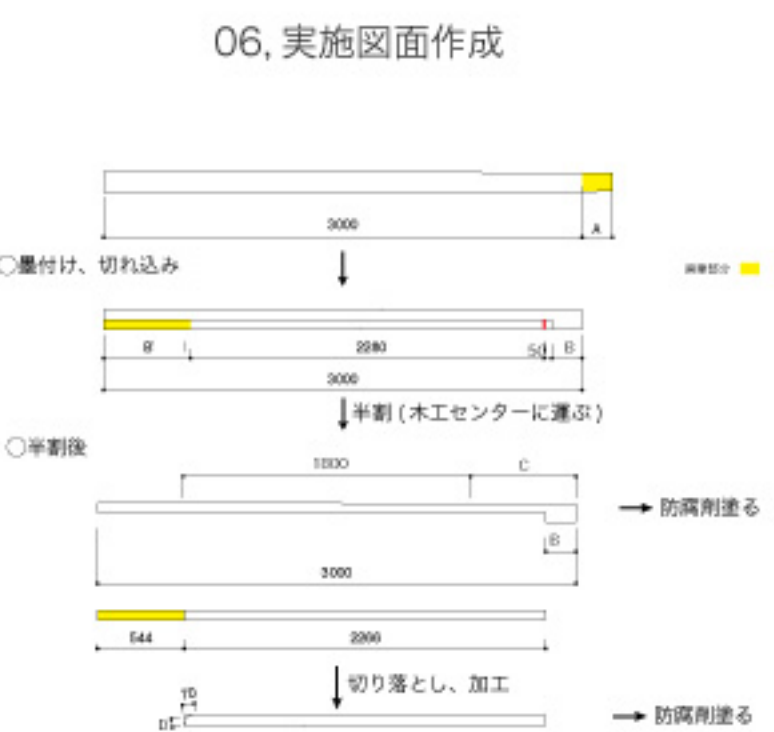


● 土台と前面材接合の検討

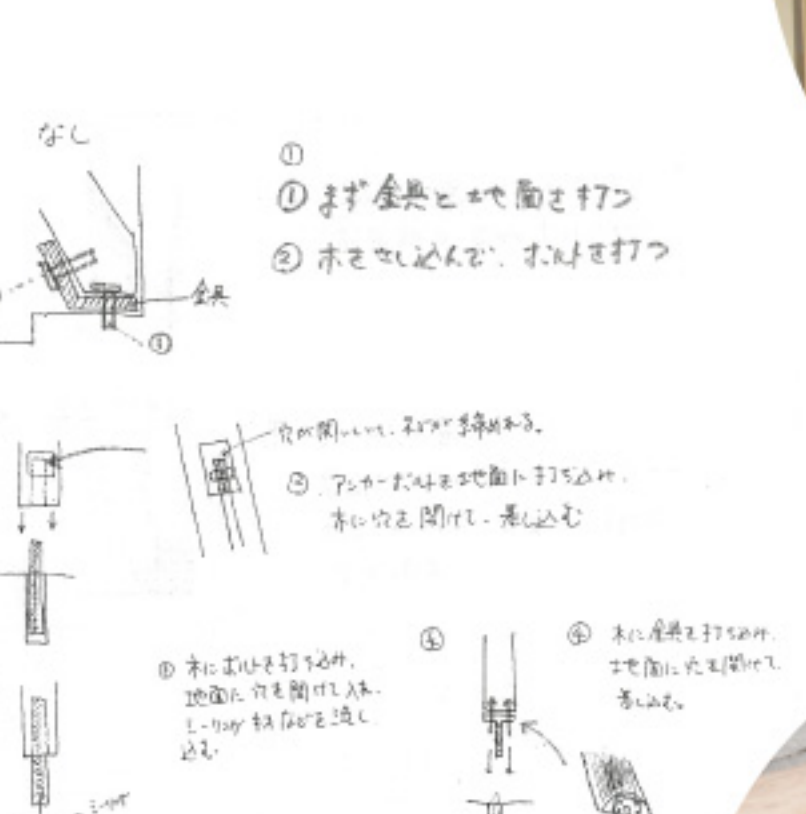


Program 2

06、実施図面作成



● 半割りをする部分の図面



● 基礎と土台の接合検討



● Day 1

07、墨付け、半割り加工

小口から100-200mm残し、それ以外を半割りにするため墨付けを行い、出来上がった材から製材所で加工を行った。



● Day 2

08、前面材加工

屋根材同様に半割りを行い、土台と接合する為テンプレートを使用し元口を加工する。



● Day 3

9、横架材留め

折半屋根に屋根材の荷重を分散させないように100x100の製材を載せ既存のボルトと接合。



● Day 4

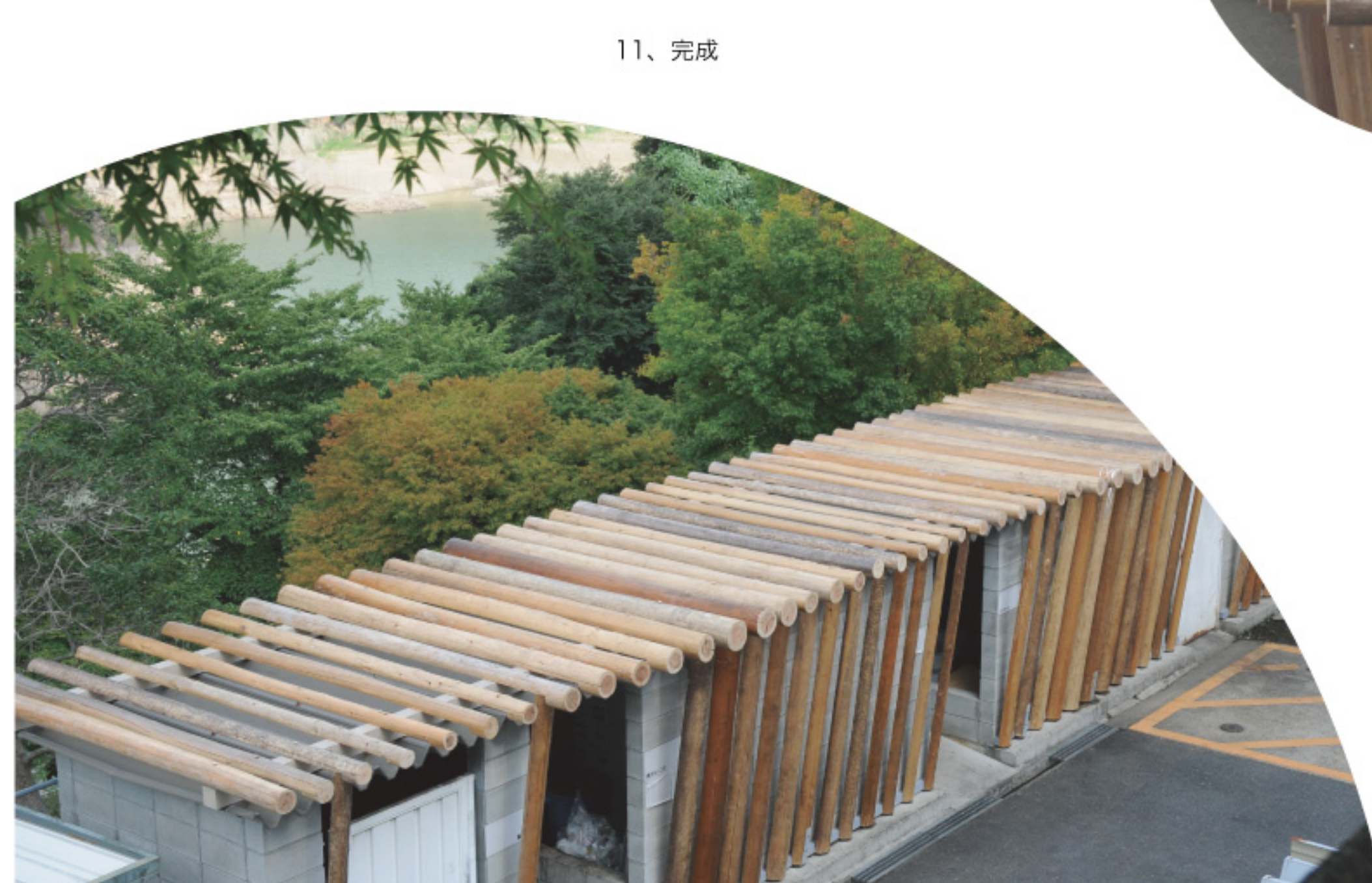
10、屋根材と前面材接合

横架材に屋根材を接合したあと屋根材と前面材を接合するが、角度を合わせながら土台に接合する。

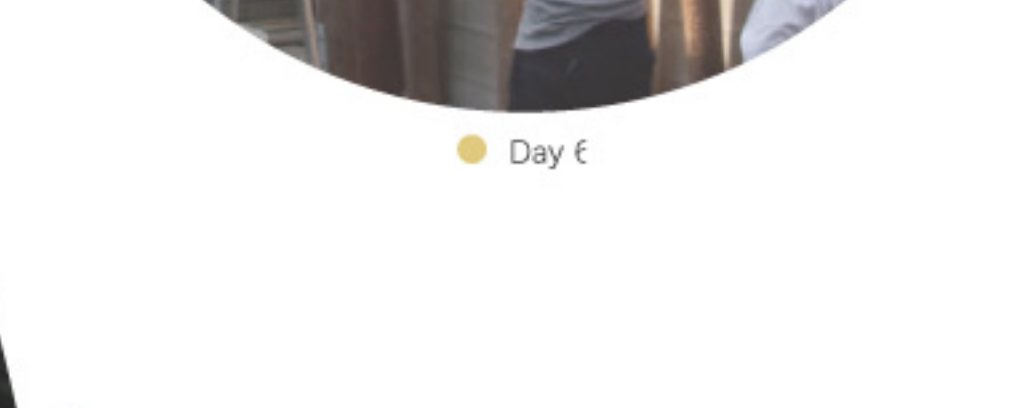


● Day 5

11、完成



● Day 6



● Day 7